

大宮西高校は有終の美を飾ることができたか

本日令和2年3月31日をもって、さいたま市立大宮西高等学校は閉校いたします。

大宮西高校最後の1年を振り返ると、大宮国際中等教育学校の開校とその1期生の入学に始まり、「西高最後の」という冠が常に付いて回った幾つもの学校行事を経て、新型コロナウイルス感染拡大の影響で日を変えて挙行了した第56回卒業証書授与式に至るまで、まさに激動の日々でした。

最後の卒業生となった239名は、この時が来ることを承知で本校に入学してくれたわけですが、母校を愛する思い、惜しむ気持ちは年毎に強くなり、寂しさを感じることも少なくありませんでした。卒業生ほか関係者の皆様、地域の皆様におかれましても、6年前の「中等教育学校への改編」発表以来、名残を惜しむお気持ちを、多くの方々から様々な形で伝えていただきました。

年度当初、本校生徒に「自分自身の高校生活の総仕上げという意味でも、創立58年の大宮西高校としてのフィナーレという意味でも、いかに有終の美を飾るかが大事だ」と伝えました。先の卒業証書授与式で生徒会長が語ってくれた卒業生代表の言葉の中に、「僕たちは有終の美を飾ることができたか」というフレーズがあって、生徒たちはそれぞれに「有終の美を飾る」ことを意識してくれていたのだろうと感じ、ありがたく思いました。

社会情勢から、年度末に予定していたホームカミングウィークは中止せざるを得なくなり、閉校式と大同窓会は期日を定めないまま当面延期せざるを得ないこととなりました。それでも、懐かしい校舎が残っているうちに母校を見ておこうとお考えの卒業生の皆様が連日数十人ずつ、最終日には数百人の方々が来校し、住人のいなくなったホームルーム教室ほか校舎内を懐かしく探索してくださいました。「こんな機会がなければ、母校を再訪することも無かったかも知れません。」という声も聞かれ、皮肉なものですが、わざわざ遠方から足を運んでくださる方もいらっしやって、本当にありがたいことだと感じました。

閉校行事は中止や延期をせざるを得なくなりましたが、ここまで様々な企画を準備し、実行して下さった卒業生有志やPTA役員OB有志による大宮西高校閉校事業実行委員会の皆様には、心より感謝申し上げます。とりわけ、2年前から活動してくださっている卒業生有志の皆様による「ありがとう西高！」の活動には、ただただ敬服するばかりです。駅前フラッグ掲出や記念映像制作などの圧倒的な記念イベントに加え、閉校行事中止の代替策として急遽、大宮アルシェさんに大型ビジョンでPR用記念動画を繰り返し上映いただいたり、そごう大宮店さんに落書きボードや顔出しパネルを始めとする「大宮西高展」を開催させていただいたり、芸能活動をされている卒業生の方々を案内役に校内巡り動画を撮影しYouTubeで公開いただいたりと、次々と魅力的な企画を立てては着実に実現してくださいました。

先述した「いかに有終の美を飾るか」については、私はかねてから「その最後の時期のイベントの成否ではなく、それまでの過程に懸かっている」と申し上げて来ました。こう

して遂に閉校を迎えた今、その「過程」を振り返ってみると、本校生徒が満足度の高い高校生活を送れたと感じてくれたこと、そして卒業生に代表される関係者の皆様や地域の皆様の多くの声から、最後まで愛される大宮西高校であり続けたと実感できたことから、大宮西高校は、間違いなく有終の美を飾ることができたと自負しております。ここに至るまで、卒業生、そのご家族、教職員など本校関係者の皆様、そして地域の皆様には、最後まで大宮西高校を温かく見守ってくださり、誠にありがとうございました。

昭和37年に創立され、幾つかの変遷を経て今日まで発展して参りました本校は、奇しくも新たな時代「令和」を迎えた節目の時に、継承校となる大宮国際中等教育学校へと遷り変わる事となりました。卒業生はじめ関係者の皆様、地域の皆様には、今後もこれまでと同じように大宮国際中等教育学校を温かく見守っていただけますようお願いいたします。そしてその礎には、皆様から愛され惜しまれつつバトンを次代に繋いだ「さいたま市立大宮西高等学校」があったことを、いつまでも忘れずにいてくださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

58年間、ありがとうございました。

令和2年3月31日

さいたま市立大宮西高等学校 第16代校長 関田 晃